

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和元年度)

施設の名 称	宮城県さくらハイツ
指定管理者の名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施設所管部 課(室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 令和3年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指定管理者の名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

施設の名 称	宮城県さくらハイツ	
所 在 地	宮城県	
設 置 年 月	昭和23年12月	
根 拠 条 例 等	母子生活施設条例, 母子生活支援施設条例施行規則	
設 置 目 的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施設の内 容	敷 地 面 積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構 造	鉄筋コンクリート造4階建て
	内 容	事務室、相談室、多目的室、保育室、母子生活居室等
開 館 ( 所 ) 日	通年	
開 館 ( 所 ) 時 間	24時間	
指定管理者が行う業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子生活支援施設条例第3号各号に掲げる業務</li> <li>・支援施設の維持管理に関する業務</li> <li>・その他, 知事が別に定める業務</li> </ul>	
利 用 料 金 制	採用の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
開館(所)日数	366 日	365 日	366 日	100.0%	100.3%
延べ利用者数	240 世帯	230 世帯	233 世帯	97.1%	101.3%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和元年度) (A)	前 年 度 (平成30年度) (B)	評価対象年度 (令和元年度) (C)		
県指定管理料	62,620	61,430	62,620	100.0%	101.9%
利用料金収入				#DIV/0!	#DIV/0!
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	62,620	61,430	62,620	100.0%	101.9%

(2) 支出

人件費	48,917	45,446	47,375	96.8%	104.2%
施設管理費	7,664	7,759	7,041	91.9%	90.7%
事業運営費	6,039	6,519	6,426	106.4%	98.6%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	62,620	59,724	60,842	97.2%	101.9%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1,706	1,778	#DIV/0!	104.2%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和元年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
				評価		評価
①管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員体制については、常勤12名、非常勤2名、計14名。児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし有資格者、社会福祉経験者を配置</li> <li>・職員研修は県内外、法人内、施設内の研修に積極的に参加し専門的知識の習得、資質向上に努めた(母子生活支援施設・DV関係、児童虐待防止学会、心理療法保育技能研修)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低基準の職員配置基準を満たし社会福祉士・精神福祉士・公認心理士・保育士・臨床発達心理士などの資格を有した職員を採用し、充実した支援に努めている</li> <li>・母子の入所課題は多岐にわたり専門的知識や対応が求められ積極的に研修に参加し、カンファレンスや検討会等の施設内研修に努め支援の資質向上に努めた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあっている。</li> <li>・職員研修については、複雑多岐な支援課題に対応できるよう、各種研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めている。</li> <li>・また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。</li> </ul>	
人員体制	正規 8人	非正規 6人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、利用者と共に掃除し衛生に配慮。</li> <li>・退所時のリフォーム、建物、備品関係の修繕、調整が18件実施</li> <li>・遊具の点検は毎月行い法令に従い定期的に実施</li> <li>・排水管の全館高圧洗浄や排水管の水漏れ防止、共有スペースの年1回のワックスがけを行った</li> <li>・真夏の健康維持のためにエアコンを設置</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と利用者が共に施設内の美化を意識し環境整備に努めた。感染防止について利用者に情報を提供し注意喚起を徹底し施設全体で取り組んだ</li> <li>・安心して生活できるよう消防設備などの点検など法令に基づいて管理を行いメンテナンスなど定期点検に努めた</li> <li>・経年劣化に伴う修繕が予想され早期に対応し快適な住環境に努めた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、利用者共に、日常的な清掃を行い、施設内のより良い環境づくりに努めている。</li> <li>・施設整備の修繕についても、日頃から安全点検に努めるとともに、修繕が必要となった場合は迅速に対応している。</li> <li>・施設の維持管理に関して、法令に基づき、点検等を十分に実施し、入所者の安全が確保されるよう、十分な環境整備に努める必要がある。</li> </ul>	
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運営は事業計画に従い実施</li> <li>・母支援(支援9項目、4868件、前年比79%)、児童支援(支援7項目、2461件、前年比154%)、保育支援(保育室利用延590件、前年比172%)、保育園利用時支援(延159件、前年比27%)、心理支援(支援5項目367件、前年比262%)、個別対応支援(母352件児538件、前年比101%)、公的関係機関連携(170件、前年比103%)、退所者支援(母136件、児79件、前年比129%)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV、虐待からの回復として家族ミーティングや個別対応を通して家庭支援に努め、利用者の安心した養育と自立に向け関係機関との連携や家事介入など生活に寄り添い支援した</li> <li>・自己回復として自由に過ごせ、語れる場が必要であり心理室「ほっこり室」が大きな効果を上げている</li> <li>・退所者に関しては電話、訪問、関係機関との調整など切れ目のない支援に努めた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV被害世帯に対し、自立支援のみならず、母子の精神的ケアなどきめ細やかな対応を行っている。</li> <li>・様々な問題を抱えた利用者等、困難なケースに対しても、関係機関との連携により、適切な支援の実施に努めている。</li> <li>・退所者への支援についても、積極的に取り組み、継続した自立支援に努めている。</li> </ul>	
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の設置環境から施設単独の地域支援事業の実施は難しいが地域交流を意識し、資源ごみ回収の協力や町内会総会の会場として施設のスペースを解放した</li> <li>・退所者支援として施設内で習字教室を退所後も継続できるように地域に教室を移した。</li> <li>・地域貢献として子育て支援やイベントにスタッフとして参加</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の機能上地域のひとり親家庭に対しての支援事業が難しいが、地域からの相談や支援の要請があり母子生活支援施設の機能を生かし、必要な情報を提供するなど地域貢献やアウトリーチに努めた</li> <li>・要保護児童対策協議会や社会的養護推進計画等に参加し関係機関と連携しアフター支援に努めている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・秘匿性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。</li> <li>・退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを実施している。</li> </ul>	
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・365日24時間体制で生活支援を実施</li> <li>・年間在籍233世帯 同伴児423人</li> <li>・入所:4世帯11人(前年度5世帯13人)</li> <li>・退所:5世帯13人(前年度5世帯17人)</li> <li>・利用者の状況については①③に記載あり</li> <li>・職員会議、合同処遇会議、ケース検討会研修に参加し支援の向上に努めた</li> <li>・第三者評価における自己評価を実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全、安心に対して24時間体制で迅速な支援に努め、退所後も切れ目のない支援に努めた</li> <li>・毎年個別面接で今後の生活の見通しを話し合い、利用者と一緒に作成した自立支援計画をもとに支援した</li> <li>・課題解決のための専門性が求められ、経験年数に合わせた研修に参加</li> <li>・第三者評価制度に基づきサービス向上に努めた</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者個々の実情に応じたきめ細やかな支援が行われている。</li> <li>・家族面接や自立支援計画の見直しなど、入所者と常に話し合いを持ち、入所者の意思を尊重しながら、自立に向けた支援を行っている。</li> </ul>	
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の苦情要望にはその都度対応</li> <li>・利用者アンケートを年2回実施</li> <li>・母21人(質問12項目:はい207, いいえ, 12どちらでも27)</li> <li>・子24人(質問4項目, はい57, いいえ4, どちらでも12)</li> <li>・アンケートの内容や要求に対しては職員会議で協議・検討している</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の会話や声がけ、関わりなど関係性を大事にし必要に応じた家事介入、個別対応や要求や要望には早期の対応に努めた</li> <li>・アンケートの要望や意見に対して早急に対応した</li> <li>・今年度の苦情解決制度の利用はなし</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>入所者からの要望に対し、常に誠実な姿勢で迅速な対応に努めている。</li> </ul>	
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝見回りをし火の元や体調を確認</li> <li>・定例集会でストーブや電気機器安全な使用方法や感染症の予防について周知</li> <li>・3施設合同の防災会議を開催し防災訓練を毎月1回実施(総合訓練2, 避難, 消火, 放水, 通報, 防犯)</li> <li>・遊具点検を3年に1回実施, 毎月安全点検を職員が実施</li> <li>・不審者や追跡者について警察と連携</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の安全管理や携帯電話などの電子機器の使用について利用者に情報を提供し危機管理に努め、感染症については防止、対応について関係機関と情報共有し利用者の健康管理に努め安心して生活の支援に努めた</li> <li>・防火訓練(不審者訓練), 防災訓練など非常時、緊急時を想定し訓練を実施。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機対応マニュアルの整備や防災訓練の実施等、安全対策が適切に実施された。</li> <li>・遊具の点検等、施設の維持管理については、入所者が安全に利用できるよう、法に基づく設置基準等を遵守し、常に安全に配慮した運営に努める必要がある。</li> </ul>	

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑧県民の平等利用	・県内全域の福祉事務所から受入れ平等性を確保、緊急に対しては迅速かつ積極的に受け入れた ・アウトリーチとして支援を必要とする方に福祉事務所で直接画像で施設の情報を提供	・県内外の福祉事務所からの多数の問い合わせに対して支援力を活かし対応した ・緊急性の高いケースや利用を迷うケースに対して福祉事務所でDVDを使い施設の利用について情報を提供 ・利用者から「施設のことを知らなかった」という声にアウトリーチとしての情報発信に今後とも取り組んでいきたい	S	・円滑に入所者の受入れを行うよう努めており、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど、支援の協力を工夫している。 ・緊急性の高い世帯の受入体制の確保及び支援を必要とする世帯に対し、適切な対応を実施している。	S
⑨個人情報の保護	・個人情報保護管理規程や倫理綱領、基本理念の遂行に努め保護に努めている ・情報漏洩が起こらないよう関係機関に状況を説明し協力を要請 ・利用者に自分や他者の安全を守る意味や個人情報の重要性について説明している	・職員会議で徹底した管理に基づく情報の漏洩防止に努めることを共有し、関係各所と慎重な個人情報の取扱いについて共有 ・利用者同士が個人情報を伝えることにより生活が脅かされることを入所面接で伝え「生活を守ること」の理解と協力を求めた ・職員の個人情報取り扱いや記憶媒体による持ち出しの取扱いを指導している	S	・個人情報保護管理規定等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 ・外部に対する情報漏洩防止対策が徹底されている。 ・利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。	S
⑩利用実績	上記4(1)に記載	・緊急性が高く、身内からの支援が得られない世帯が多く福祉事務所からの入所依頼に対して公平で平等な受入れに努めた ・入所実績は昨年同等であった。DVDで施設の支援を紹介しアウトリーチに努め積極的な入所受入れに努めた ・多岐にわたる課題について関係機関と連携したケア会議等が利用者の支援、自立に繋がっていることを評価したい	S	・DV被害者等、様々な入所依頼に適切に対応している。 ・退所実績は入所実績とほぼ同数となり、施設における自立支援の取組の成果とみられる。 ・入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め、支援の充実に取り組まれている。	S
⑪収支実績	上記5に記載	・昨年同様働き方改革として支援や職場環境改善に取組み、超勤の軽減や支援の資質向上など管理経費の節約節減や職員の意識改革となっている ・今年度も運営と充実した支援や職員の意識改革により事業は計画通り達成した ・家族再構築を目的とした家族単位の行事など家族の楽しみを通しての関係性の変化など費用対効果と評価したい	S	利用者への支援体制を確保しながら、管理経費等の削減に努めている。	S
⑫その他の取組	・要対協、学校で委員や役員として地域の要保護家庭や要保護児童の支援に協力 ・大学からの依頼により母子生活支援施設について講義し地域の社会資源としての啓もうに努め、保育実習生を受け入れ人材育成に努めた ・ひとり親家庭や機能不全家庭に対して地域からの相談に応じ関係機関と協働しアウトリーチとして情報を提供した	・アウトリーチとして地域や関係機関に母子生活支援施設の役割を発信することの大事さを利用者から学び、関係機関と協働し地域の福祉資源の活用に取り組んだ ・施設全体で保育実習を積極的に受け入れ次世代の育成に努めた ・環境配慮実践事業の認定を受け環境に配慮した取り組みを施設全体で実践した	S	・地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。	S
	総合評価	・暴力被害の影響と思われる不安定な母子関係や知的障害の母子の対応には専門的知識やスキルが要求され、常に職員は研鑽を積み、関係機関と連携し資源を活用し、アウトリーチとして支援を発信し施設運営に努めたことを評価したい ・家族単位でのミーティングや行事、心理相談室など家族支援に取組み、アフター支援や入所の問い合わせなどアウトリーチとして児童福祉施設としての運営に努めた	S	DV被害世帯や多子家族世帯等、様々な状況の世帯が入所している中、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を最大限行う努力をしており、利用者へのメンタルヘルスケアの充実など、常にサービスの質の向上を考えた取組を行っている。	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>・退所後養育や通院同行などの継続したアフター支援が必要なケースが増加。入所中利用者の課題も多岐に渡り対応が必要であり、退所後はアフター支援としての専門の支援員が必要と考え早急に検討が必要と考える。</p> <p>・民間の母子生活支援施設の処遇改善費が認められているが民間同様措置費に基づく処遇改善が適正に実施できるよう要望していきたい。</p>	<p>アフターケア支援員の必要性及び職員の処遇改善について、地域における切れ目ない支援の充実、施設の適切な運営が確保されるよう検討していく。</p>